

$$M = t^\beta \varphi(h/t^{\beta+r}) \dots\dots\dots (16)$$

という型になることがわかる。<sup>5)</sup>これより、

Domb & Hunter,<sup>5)</sup>等の方法によって、(9)の関係が導かれる。或いは、(11)の分布関数を直接、4~7)式に入れて議論することも出来る。結論として、Kadanoff<sup>7)</sup>の scaling law と同じ結果が導かれたことになる。

#### References

1. T.D.Lee and C.N.Yang, Phys. Rev. 87 (1952) 410.
2. M.Suzuki, Prog. Theor. Phys. 38 (1967) 289.
3. M.Suzuki, Prog. Theor. Phys. no. 7701 (to be published).
4. R.Abe, Prog. Theor. Phys. 38 (1967) 72.
5. M.Suzuki, J.Phys. Soc. Japan 22 (1967) 757.
6. C.Domb and D.L.Hurter, Proc. Phys. Soc. 86 (1965) 1147.
7. L.P.Kadanoff, Physics 2 (1966) 263

### Green函数の decouplingによる強磁性理論

桂 重 俊 (東北大)

Green 函数の decoupling による強磁性理論は Tjablikev 以後多くの人々により近似をあげることが試みられたが、その多くにおいては Tjablikev のもっていた全局性が損なわれている。我々は Pauli operator が同じ場所に対して持っている反可換性が近似の全局性に対して重要であると考えて一つの近似法を展開した。詳しくは前号に掲載された桂、堀口の論文を読んで頂きたい。